

議会活動報告

市議会議員は、定例会や臨時会のほかにも、各々が所属する委員会や一部事務組合等に
関係する会議や視察、研修などにも出席しています。

令和5年11月1日～令和6年1月31日の主な活動

11月

- 2日 ■ 第6回文教厚生委員会
- 第3回議会改革推進委員会
- 第4回基地対策特別委員会
- 6日 ■ 多摩都市モノレール建設促進及び公共交通
対策特別委員会行政視察(多摩都市モノレ
ール株式会社)
- 全国市議会議長会基地協議会第107回理事会
- 8日 ■ 令和5年第2回瑞穂斎場組合議会定例会
- 13日 ■ 文教厚生委員会調査研究活動(羽村私立保
育園協議会との懇談会)
- 文教厚生委員会行政視察(立川市)
- 全国市議会議長会基地協議会関東部会総会
- 14日 ■ 第6回議員全員協議会
- 16日 ■ 令和5年第3回羽村・瑞穂地区学校給食組
合議会定例会
- 17日 ■ 令和5年第3回青梅、羽村地区工業用水道
企業団議会定例会
- 第6回西多摩市町村議長意見交換会
- 20日 ■ 東京都市議会議長会理事会・定例総会
- 24日 ■ 令和5年第2回西多摩衛生組合議会定例会
・議員全員協議会
- 令和5年第2回東京都後期高齢者医療広域
連合議会定例会
- 27日 ■ 第6回議会運営委員会
- 令和5年第2回福生病院企業団議会定例会
- 30日 ■ 環境まちづくり委員会市民インタビュー(羽
村市農業後継者クラブ学校給食食材生産部)

12月

- 4日 ■ 第7回議会運営委員会
- 5日 ■ 第8回議会運営委員会
- 第4回羽村市議会定例会(初日)

- 6日 ■ 第4回羽村市議会定例会(2日目)
- 7日 ■ 第4回羽村市議会定例会(3日目)
- 8日 ■ 第4回羽村市議会定例会(4日目)
- 12日 ■ 一般会計等予算審査特別委員会(補正予算)
- 13日 ■ 第4回環境まちづくり委員会
- 第7回文教厚生委員会
- 14日 ■ 第4回総務委員会
- 18日 ■ 第9回議会運営委員会
- 20日 ■ 令和5年度議員研修会(「ハラスメントなぜ
起こる～ハラスメント最新事情 議会対応
について考える～」)
- 21日 ■ 第4回羽村市議会定例会(最終日)
- 22日 ■ 第4回議会改革推進委員会
- 25日 ■ 第7回広報委員会

1月

- 11日 ■ 令和6年第1回広報委員会
- 16日 ■ 三多摩上下水及び道路建設促進協議会第3
委員会
- 令和6年第1回議員全員協議会
- 17日 ■ 令和6年第1回文教厚生委員会
- 令和5年度議員研修会(「『政策に強い議会』
をつくる～その視点と方法～」)
- 22日 ■ 東京都三多摩地区消防運営協議会第二部会
- 第5回議会改革推進委員会
- 第2回広報委員会
- 25日・26日
- 総務委員会行政視察(大阪府河内長野市・
堺市)
- 31日 ■ 全国市議会議長会基地協議会(理事会・総
会・意見交換会)
- 令和6年第1回東京都後期高齢者医療広域
連合議会定例会

令和6年能登半島地震に伴う 災害義援金の送金について

羽村市議会議員会は、被災された方々の一日も早い復興を願い、1月17日に石川県令和6年能登半島地震災害義援金口座に10万円を送金しました。



謹んでお悔やみ申し上げます

大塚あかね議員

令和5年12月15日ご逝去(享年62歳)
所属会派 令和かがやき(立憲・無所属)
所属委員会 文教厚生委員会(委員長)
平成19年5月～市議会議員(5期目)

環境まちづくり委員会

行政視察報告

10月30日～31日に、静岡県浜松市と南信州 飯田産業センター（長野県飯田市）を視察しました。

〈静岡県浜松市〉

エネルギースマート シティについて

市独自のエネルギー政策

浜松市は人口79万人。自動車・二輪車、楽器等の製造が盛んである。市民生活や産業を支えるエネ



▲後列左から山崎副委員長、池澤委員、秋山委員、櫻沢委員、富永委員、前列左から浜松市職員の皆さん、高田委員長

ルギー確保を積極的に推進するため、「浜松市エネルギービジョン」を策定している。2050年度に再生可能エネルギー電力自給率100%を目標に、日照時間が日本一である市の特徴を生かして、太陽光発電、風力発電や廃棄物を活用したバイオガス発電、小水力発電等の導入を計画している。2015年に(株)浜松新電力を官民の共同出資で設立し、市内の再生可能エネルギー等の地産地消システムを担っている。現在は公共施設を中心に電力を供給しているが、今後は市民向けの供給も検討している。

羽村市における省エネの活用

羽村市では、民家・工場の屋根

を活用した太陽光・太陽熱発電や多摩川などの水源を活用した小水力発電など、再生可能エネルギー活用之余地がある。活用には、自然・生活環境に与える影響を十分考慮することや、地域との対話を進めることの重要性を改めて認識した。



▲浜松市では太陽光発電施設の導入を積極的に行っている

〈静岡県浜松市〉

リノベーション まちづくりについて

遊休不動産の活用

浜松市では中心市街地などで店舗やオフィスの減少が続ぎ、遊休不動産を活用する取組みとして、市で事業を始めたい企業・個人向けにリノベーションスクールを開催している。このスクールでは、市内の空き物件を見学し、事業を

始めたい企業や個人の方に現実的な物件の活用方法や事業プランを考えてもらっている。その結果、34物件をスクールで扱い、16物件で起業に繋がった。令和5年度からは、リノベーション事業を実施する事業者に対し、その経費の一部を助成している。

取組みの効果

この取組みは地域再興へ寄与するだけでなく、職員自ら空き物件を探し、人材を発掘することで地域と行政がつながるといふ副次的な効果をもたらすことも考えられる。地域の持続可能な発展に向けた取組みであり、将来ビジョンの示し方や市民との協働など、羽村市における遊休不動産の活用を考える際の参考となった。



▲整備された高架下の公共空間「新川モール」。休日は様々なイベントが開かれている



▲「エス・バード」エントランスの実験機

〈南信州・飯田産業センター 「エス・バード」(長野県飯田市)〉 産業振興と人材育成

山国・信州で航空宇宙産業を

南信州・飯田産業センターは地域産業振興の支援機関。業界団体の事務局や講座室、実験棟などが置かれ、新規産業の発展や人材育成を行う中核施設「エス・バード」の指定管理者である。

「エス・バード」は、南信州広域連合、長野県工業技術総合センターや信州大学などと連携し運営されている。信州の「S」、航空機を「鳥(BIRD)」にイメージした愛称で、エントランスには、JAXA(宇宙航空研究開発機構)が高速飛行実験をした小型ロケットが展示され、来訪者を迎える。



▲研究設備や研修講座、行政窓口などさまざまな機能を備える「エス・バード」

この施設での取組みの中心は航空宇宙産業。航空機部品は気圧、温度、振動にも耐えられる精度や強度、信頼性が必要である。ねじ、歯車、ワイヤーなどの製品開発に取り組み中小企業の要望に応じて工業技術試験研究所に各種の試験測定装置を設置して対応する。南信州地域の製造業は約300社。航空機分野の主要企業は12社で、共同受注やシステム装備品の連携・協働も支援している。

工業高校の空き校舎を活用

飯田市は人口約10万人。長野県南部の中央・南アルプス山麓の盆地で、諏訪湖を源流とする天竜川の流域。日照時間が長く空気も清

廉。戦時中に疎開した精密機器工業の伝統もある。「エス・バード」の建物は、高校統合の空き校舎利用を国、県、信州大学と検討し、「航空宇宙産業と人材育成」の拠点として、地方創生交付金10億円や県の補助金を活用して再整備された。施設整備・機器導入に約27億円を投入、「長野県航空産業振興ビジョン」に沿い、10年間は航空機研究を優先し事業を行っている。

大学との連携で、人材育成も

信州大学の「航空機システム研究講座」は1期4年間で昨年までに19名が終了し、航空機メーカーなどに就職した。また、100年先の都市計画としての「ランドスケープ研究講座」や「社会人育成講座」などで人材育成も牽引。

食品棟では地元農産物を使った伝統的な発酵食品や干し柿などの乾燥食品の研究会を開き、新製品やブランド化を支援。和紙を原料にした「水引き」は付加価値の高い逸品である。農業、商業、観光などの異分野交流での新たなサービス提供も進め、持続可能な地域振興を目指している。

太平洋に開く窓

飯田市は中央自動車道で名古屋までは約1時間半。リニア中央新幹線飯田駅の設置が予定され、浜松市までの高規格道路が完成すれば太平洋に開く窓となる。また豊橋市も加えた「三遠南信広域連合」も検討され、県境連携の先進モデルとして約10万事業所で製品出荷額13兆円の巨大経済圏が期待される。地域の伝統を守りつつ、未来産業に挑戦。明確な理念、達成目標を掲げ、費用対効果まで見通した将来像である。「実直・勤勉、努力と忍耐、控えめで謙虚」と言われる山国・信州人気質から飛躍し、選ばれる地域を目指す姿はまさに「エス・バード」です。

この先進的挑戦は、「進取の気性」を掲げる羽村市もぜひ、参考としたい。

▼視察報告書



文教厚生委員会

行政視察報告

8月14日に東京都三鷹市、11月13日に東京都立川市を視察しました。

〈東京都三鷹市〉

コミュニティ・
スクールについて

三鷹市の取り組み

羽村市教育委員会は、コミュニティ・スクールを来年度に全小・



▲左から石居委員、金子委員、浜中副委員長、三鷹市職員の方、大塚委員長、門間委員、菅委員

中学校で導入していくために準備を進めている。しかし、児童・生徒の保護者や地域の方から「コミュニティ・スクール」という言葉はまだ馴染みがなく、わかりにくいとの声がある。そこで、早くからコミュニティ・スクールを基盤とした、小・中一貫教育を実施している三鷹市を視察した。

三鷹市は、公立学校区が7つに区分されており、小学校15校、中学校7校を設置している。また、全ての小・中学校において、小・中一貫教育を展開、学校区ごとを学園と称し、学園単位での取り組みを行っている。各学園では、学校・家庭・地域がそれぞれ責任と権限をもち、当事者として「ともに」手を携え、地域の子供たちの教育にあたるシステムとして、コミュニティ

ティ・スクール委員会を設置。学校運営への参画と教育活動への参画の2つの面から機能しているという。

三鷹市教育委員会では、コミュニティ・スクールのスタートにあたり、取り組みを各学校で展開していくために、学校自らが、保護者や地域の方にコミュニティ・スクールのことを伝え、相互理解を進めていくことが必要と考えた。そのため、準備委員会などを設け、学校を支えている地域の方や保護者に対して、コミュニティ・スクールの基盤とした小・中一貫教育の取り組みの主旨を熱意を持って何度も何度も語っていったという。また一方で、校長をはじめとした学校関係者に対しても、繰り返し何のためにコミュニティ・スクールの推進するのかを説明している。

準備委員会を実施し、各種の団体との交流・意見交換を実施していく中で、我が学校をチーム学校として支えていこうとするネットワークが出来上がっていったように思う。

羽村市のこれから

羽村市としても、このような市民に理解を得るための取り組みを、丁寧に積み重ねていってほしい。また、説明していく際に、難しい言葉で伝えるのではなく、わかりやすい言葉で、共感の輪を広げていってほしい。文教厚生委員会としても、今後の教育委員会や学校の取り組みを注視していく。



▲担当職員の方に説明を受けました

マンガでわかる みたかの教育



▲みたかの教育を伝えるために作成されたリーフレット

〈東京都立川市〉

重層的支援体制整備事業

「孤立のないまち」
「住民が困りごとの解決
に参加できるまち」
を目指して

地域福祉課を新設し本格実施

令和2年6月の社会福祉法の改正により、重層的支援体制整備事業が創設された。この事業は、分野別の支援体制では対応しきれない「複雑で多様化した支援ニーズ」に対応する包括的な支援体制をつくるため実施するものである。

立川市では、令和2年度から重層的支援体制整備事業への取組みの検討・試行を重ね、令和4年度から本格実施している。8050問題、社会的孤立、ダブルケアなどの複合化・多様化した支援ニーズに対応するため、これまでの相談体制や支援体制を生かして、生活に身近な場所においてまるごと相談を受け止める体制を作り、市民、関係団体・事業者等と協働し、孤立のない地域づくりを目指している。



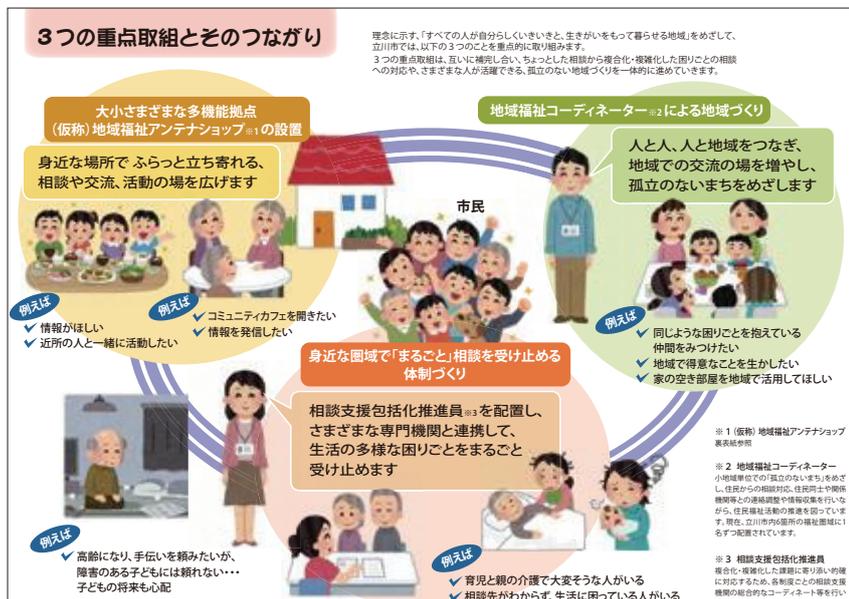
▲立川市の担当の方から説明を受けました

本格実施にあたり、地域福祉課を新設し、相談支援包括化推進員、地域コーディネーターを配置し、社会福祉協議会と連携しながら推進している。子供、介護・高齢、障がい、生活困窮のネットワーク会議に重層的支援体制整備事業担当職員が参加することにより、各分野と連携する顔の見える関係づくりを進め、行政内部でも連携会議を行っているそうである。

重層的支援体制整備事業では、サービス提供や給付等の支援策は行っておらず、相談事業による相談者の課題整理への支援や意思決定支援、課題や状況に応じた多機関共同事業による共同事業サービスへのつなぎや役割分担を担っている。

地域福祉アンテナショップの設置

身近な場所で、ふらっと立ち寄れる相談や交流、活動の場として、地域福祉アンテナショップ（居場所）を設置している。ちよっとした相談から複雑化した困りごとの活動できる地域の多機能拠点として



▲孤立のない地域づくりを一体的に進めるための立川市の取組み (ダイジェスト版立川市第4次地域福祉計画より)

羽村市のこれから

て、市内6つの福祉圏域に各1か所の設置を目指している。地域での空き部屋等を活用し、カフェや相談、情報交換など、様々なテーマで近隣住民の交流をつなぐ活動の場として設置し、誰でも、どの地域でも、参加できる居場所づくりを進めている。

羽村市では現在、個別支援体制は各部署の連携が図られ、複雑な支援事例にも対応している。今後一層、市民ニーズの複雑化・多様化が予想されている。これに対応するために、人材確保や地域の支援参加は不可欠である。詳しい説明を受けて、大きな学びになった。

▼視察報告書



しぎかいカレンダー

●第1回定例会(3月)の予定●

日	月	火	水	木	金	土
					2/16 陳情メ	17
18	19	20 議運	21	22	23	24
25	26	27 本会議	28 本会議	29 本会議	3/1 本会議	2
3	4 予特 (補正)	5 本会議	6	7 常任委	8 常任委	9
10	11	12 予特	13 予特	14 予特	15	16
17	18	19	20 議運	21	22	23
24	25 本会議	26	27	28	29	30

- 陳情メ…請願・陳情の3月定例会審議予定分の締切
 - 議運…議会運営委員会
 - 常任委…常任委員会（総務、環境まちづくり、文教厚生）
 - 予特（補正）…一般会計等予算審査特別委員会（令和5年度補正予算）
 - 予特…一般会計等予算審査特別委員会（令和6年度予算）
- ※会議の予定は変更になる場合があります。
詳細は議会事務局までお問合せください。

議会を見よう！知ろう！

～次の定例会は3月～

以下の方法で議会をご覧いただけます。

- 1 議場で傍聴 ライブで！**
感染症対策により、傍聴者の健康を守る観点から、議場にお越しになる際は、咳エチケットや手指消毒などのご協力をお願いします。
傍聴の受付は、4階議会事務局で行っています。
- 2 ケーブルテレビで生中継**
多摩ケーブルネットワーク(TCN)で、本会議の様子を生中継でご覧になれます。放送日は横のカレンダーをご参照ください。
- 3 インターネットで録画中継**
開催日の3日後(土・日曜日、祝日を除く)から、インターネットで録画中継を見ることができます。
- 4 会議録で読む**
会議終了後2か月程度で会議録ができます。冊子または、羽村市公式ウェブサイトから見るることができます。

羽村市公式サイト

<https://www.city.hamura.tokyo.jp/>

羽村市議会

検索



編集後記

12月定例会では、羽村駅西口地区の都市基盤整備に関する検討報告に関する一般質問が5人の議員から行われたほか、使用料等の値上げを行う条例改正議案が多く提出されました。住民票の写しの証明書をはじめ、事務手数料や公共施設使用料が対象となり、生涯学習センターゆとろぎについては、新たに市民等以外の使用料金が設定されました。水道料金、下水道使用料については、現在の物価高を鑑み、実施時期を遅らせる提案がされました。反対・賛成の討論がありました。これらの議案が可決されました。これら議案などについても、お近くの議員を通じてご意見をお寄せください。

長い間広報委員を務めていただいた大塚あかね議員が、昨年12月に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

(浜中)

【広報委員会委員】

富永 訓正(委員長)
濱中 俊男(副委員長)
池澤 敦 野崎 和也
金子 ひとみ 高田 和登
浜中 順

発行/羽村市議会 編集/広報委員会

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 Fax 042 (555) 0889
Tel 042 (555) 1111 (内線412~414)



「ぎかいのトビラ」は、再生紙を使用しています。